

議事録ダイジェスト版

開催日： 2016 年 11 月 9 日（水） 午前 11 時 00 分～午後 5 時 00 分

開催場所： 東京・築地・MFJ 会議室（東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F）

1. 委員改選について

- 任期満了に際し、藤原広喜氏の委員長、池尻和彦氏の副委員長の継続が承認された。
- 退職に伴い施設特別会員の SUGO 代表が藤原広喜氏より大内心氏に交代されたことが報告された。
- 選手会長は、大川原潤氏となったことが報告された。

2. 前回議事録の確認

本年 4 月 14 日に開催された平成 28 年度第 2 回エンデューロ委員会議事録が承認された。

3. 開催状況、ランキングの中間報告について

- ① 全日本選手権シリーズは、3 戦終了時点で承認クラスを含めたエントリー台数が前年比 116%である。クラス別は、IA: 125%、IB: 109%、N: 122%、W: 175%で全日本対象クラス計は 122%である。併催承認クラス計は 167%である。
- ② エリアシリーズは、以下の通りである。
北海道 … 前年比:171% (地方対象クラス計:156%、併催承認クラス計:162%)
東日本 … 前年比:108% (地方対象クラス計:91%、併催承認クラス計:142%) ※SUGO2DAYS 大会未考慮
中日本 … 地方クラス平均参加台数:29 台、併催承認クラス参加台数:21 台
西日本 … 前年比:98% (地方対象クラス計:213%、併催承認クラス計:76%)
九州 … 前年比:118% (地方対象クラス計:93%、併催承認クラス計:96%) ※4 戦までの途中経過数

③ 2016 全日本選手権シリーズ審査委員長報告(第 3 戦まで)

第 1 戦 広島大会(テージャスランチ) 5 月 8 日

天候に恵まれ、良好なコンディションで開催することができたが、ナショナルクラスには、難易度が高かった。パドック内の通路(区画)が整然と整備されており、安全面に配慮がなされていた。

主催者より

予想をはるかに上回る 154 台もの参加台数を集めた。(金)まで雨が続いたが、(土)に雨が上がり急速に乾き、路面コンディションの変化に対応するのに苦労したものの、地元スタッフの情報が役に立った。

第 2 戦 近畿大会(プラザ阪下) 6 月 19 日

午前中は小雨の降るコンディションだったが、路面のグリップはよく埃がおさえられていた。午後からは雨が強くなったことにより渋滞が発生し、ルートカットやテストのキャンセルで対応した。

今後の課題として、コース使用の都合上、前日コースが完成できない為、コースチェックが当日の朝となってしまうことであった。

主催者より

運営は円滑に行うことができた。出場台数増加に伴い、会場のキャパシティも考慮する必要があった。

5. 2017 規則改訂案について

(1) エリア選手権シリーズの昇格制度見直しについて

前回委員会で北海道部会から提案のあった、エリア選手権シリーズナショナルクラスからインターナショナル B クラスへの昇格規定(1位～5位自動昇格)の見直しについて、審議された。

決定

- ◇ 来年から各エリアで出場台数など事情が異なる為、一律5名とせず、5エリア(北海道、東日本、中日本、西日本、九州)ごとに昇格人数を分ける。
- ◇ 昇格の基準は、各エリア戦の1大会あたりの平均参加台数の10%を基準とし、各地区部会の裁量を加味した人数設定とする。(全日本大会で出走台数の平均値が上がる状況も考慮する)
- ◇ 来年から自動昇格を申請昇格に変更し、昇格するか否かは権利を得た者の自己判断に委ねる。
- ◇ 2017 国内競技規則へ反映させる為、各エリア 11 月中に MFJ 事務局へ昇格人数を報告する。

(2) ルートおよびテストの事前公示について

エリア選手権において、完成したルートやテストを SNS 等で公示し事前練習を呼びかけた事例があることが報告された。参考として、全日本選手権シリーズでは、コース図の Web 公開を開催 1 週間前とするよう JEC プロモーションでコントロールされている。

決定

- ◇ 公平性を保つ為、国内競技規則 29-2 に則り、徒歩での下見は認められるが、乗り物を使用しての下見や事前練習等は禁止と解釈し、ライダーにも周知徹底して頂きたい。
- ◇ 主催者は、事前にルートやテストを公開することは可能であるが、入場・退場口を閉鎖する等、事前に走行することができないように対処すべきである。

(3) ゼッケン等の清掃について

決定

布かスポンジに制限されている清掃器具にブラシも可能とされることが決定した。

(4) 全日本開催会場の基準見直しについて

現状、エリア選手権の開催実績を地元委員が査察報告し、委員会へ提出。承認を得た後に全日本開催が認められることとなっているが、年数が必要とされる為、主催者の運営実績のみで新会場での開催が認められるべく提案された。

決定

現状通り、主催者・会場ともにエリア以上の開催実績を有し、地元委員の査察を委員会へ報告し、承認を得ることが条件とされる。ただし、行政や公的機関が関連するなど、従来の方策で対応できない特別なケースにおいては、別途審議を行うことで対応する。

(5) ナショナルクラスの2分化について

前述にもあった通り、全日本選手権シリーズの出場台数も制限が必要な状況となっており、承認クラス受け皿としてナショナルのクラスを技量別に2クラスに分ける対応が必要との提案が出された。

意見

- これによりエンジョイライセンスからナショナルライセンスへの移行ユーザーの増加も見込める。
- ナショナルクラスの技量格差が広がっている状況でもあり、下位の技量に合わせた設定は上位者が物足りず、上位者にあわせた設定は下位には不満となってしまう。
- クラスを細分化することで自分のレベルに合ったクラスを選択可能とすることは選手にとっても良いことだ。

決定

- ◇ **2018年より**、ナショナルクラスは、NA とNB の2つのクラスを設ける。
- ◇ エンデューロは **2018年より**、IA、IB、NA、NB の区分に分けたライセンス発給とする。
- ◇ NA とNB の割合、初年度の分別方法(基準)、全日本とエリアの昇格基準などの策定は、本会終了後にワーキンググループで協議し、開幕戦前までに WEB などで公示する。

(6) 若年層の取り込み策

JEC プロモーションより、日高大会で採用している25歳以下出場者へのエントリー料金割引制度の他大会での採用拡大について提案され、主催者により事情が異なる為、各大会ごとの判断に委ねることとなった。

(7) 外部援助

現状、承認クラスも含め外部からの援助ができない規則となっているが、承認クラスは競技に馴れていない選手が多い為、対象外とする提案が出されたが、エンデューロの競技性を考慮し、現状通り援助できないこととすることが確認された。なおナショナルクラス2分化などでクラス整備された後、再検討することが確認された。

(8) 承認クラスの設定

2017年は、排気量ごとのI、IIの分類は行わない。(B,C,CW)

(9) 振込手数料をエントリー料金に含む設定とする。

2017年より、JEC プロモーションより公示される各大会のエントリー料金に振込手数料を加算する。公示の際は、エントリー料金と振込手数料の内訳を表示する。

(10) その他 JEC プロモーションからの要望

- ① (主催者に対して)各エリア選手権の参加者リストやリザルトデータを画像データ以外の形式で提供してほしい
- ② 1大会のみ、半期ごとのライセンス設定の検討
- ③ (MFJより各主催者へ支援している)全日本開催支援金の増額
- ④ (現状MFJより半額支援している)コーステープの全額支援

(11) 選手会から集められた意見が提出された。

タイヤ規制、ピットクルー制度、飲食店の出店、昇格制度、計測業務などについての意見が出され、今後の運営の参考とすることが確認された。

(12) 主催者推薦制度について

今年から採用された他競技会で実績のある選手がED インターナショナル Aクラスへの出場を可能とする主催者推薦について、今後一定のガイドラインを設けるべきか、審議された。

決定

- ◇ 一定のガイドラインは設けない。JEC プロモーションと当該大会主催者の間の判断に委ねることとする。JEC プロモーションでは、要望があった場合、最低条件として「MFJ 競技会で出場している者」、または「海外の競技会で活躍している者」を考慮する。
- ◇ あくまで主催者推薦なので、委員会審議対象とはせず、報告のみとする。

(13) ヘルメットの公認規格改訂による国内競技規則書の改訂が報告された。

6. その他事項

(1) ベルナードホジキンス賞について

この賞は、故ベルナードホジキンス氏が1994年より、ISDE日本代表チームを支援して頂いたことに感謝の意を

表し、功績を後世に残す目的で設定されていることが説明され、今後も継続していくことが要望された。
なお本年度の受賞者は、SUGO 大会会場で選考会を行い選出することが確認された。

その後の調整で、小菅浩司選手が選ばれた。

(2) ISDE 意志確認

2017 年度 ISDE の出場意志確認を、規則書に基づき事務局から発信するよう要望された。

(2) 審査委員長の派遣について

JEC プロモーションより、シリーズ全戦で藤原委員長の審査委員長派遣が要望されたが、業務の都合で困難であることが確認された。

主催者からは、競技役員とのコミュニケーションや会場査察経験などの観点から、例年同一人物による審査委員長の派遣が要望された。

以上